

# 平成30年12月期第1四半期 決算説明資料

株式会社sMedio

(東証マザーズ：証券コード3913)

<http://www.smedio.co.jp/>

平成30年5月11日（金）

本資料の無断複写、無断転用はしないで下さい

本資料の要因分析は、当社が適切と考える方法で実施している点、ご理解下さい。



Copyright© sMedio, Inc. All rights reserved.



1. 連結業績概要	…P3
2. 連結決算概要 (BS)	…P4
3. 形態別連結売上高推移	…P5
4. 連結売上高増減要因(計画比)	…P6
5. 連結営業利益・連結経常利益推移	…P7
6. 連結営業利益増減要因(計画比)	…P8
7. 研究開発費推移	…P9
8. 通貨別預金残高	…P10
9. 本資料の取扱いについて	…P11

本資料中の数値は、単位未満四捨五入で表記しております。  
なお、端数処理の影響で、各表の項目の合計と合計欄が一致していない場合があります。

# 1. 平成30年12月期第1四半期 連結業績概要

単位:百万円(四捨五入)

	平成28年	平成29年	平成30年	前年同期比	
	1-3月期	1-3月期	1-3月期		
売上高	305	325	278	△47	△14.4%
売上原価	145	158	137	△22	△13.6%
売上原価率	47.4%	48.7%	49.2%	0.5%p	
売上総利益	161	167	141	△25	△15.2%
販管費	117	140	123	△17	△12.2%
営業利益	43	26	18	△8	△31.2%
営業利益率	14.1%	8.1%	6.5%	△1.6%p	
営業外収益	1	2	0	△2	△79.5%
営業外費用	87	1	2	1	191.2%
経常利益	△43	28	17	△11	△39.9%
特別利益	—	—	—	—	
特別損失	—	—	—	—	
税金等調整前四半期純利益	△43	28	17	△11	△39.9%
法人税等	△7	14	6	△8	△55.8%
非支配株主に帰属する四半期純利益	△2	—	—	—	
親会社株主に帰属する四半期純利益	△34	14	11	△3	△23.6%

(売上高) 前年同期の大きな開発案件の反動減や出荷台数が前年同期を下回った影響が大きく、売上高は47百万円の減収となった。

(販管費) のれん償却負担減少3百万円、前年同期の本社移転関連費用剥落11百万円等で減少。

(営業利益・経常利益) 売上高減少による影響を補えず、前年同期を下回った。

## 2. 平成30年12月期第1四半期 連結決算概要 (BS)



単位: 百万円(四捨五入)

資産	平成28年 12月末	平成29年 12月末	平成30年 3月末	前期末比
現金及び預金	1,364	1,219	1,207	△12
売掛金	79	58	62	4
棚卸資産	380	245	220	△26
その他	52	35	35	△0
流動資産合計	1,875	1,557	1,524	△33
有形固定資産	19	23	23	△0
ソフトウェア	58	39	40	1
のれん	186	117	109	△8
その他	2	2	2	△0
無形固定資産合計	246	158	151	△7
投資その他資産	27	28	28	0
固定資産合計	292	209	202	△7
資産合計	2,166	1,766	1,726	△40

負債・純資産	平成28年 12月末	平成29年 12月末	平成30年 3月末	前期末比
買掛金	34	29	36	8
短期借入金	134	125	125	—
未払法人税等	8	28	9	△19
預り金	9	83	78	△5
賞与引当金	1	2	7	5
その他	60	67	65	△2
流動負債合計	246	334	320	△13
長期借入金	250	124	93	△31
その他	18	14	14	0
固定負債合計	268	138	107	△31
資本金・資本剰余金	1,163	1,175	1,175	—
利益剰余金	471	329	340	11
自己株式	△0	△227	△227	—
その他	18	17	11	△7
純資産合計	1,653	1,294	1,298	4
負債・純資産合計	2,166	1,766	1,726	△40

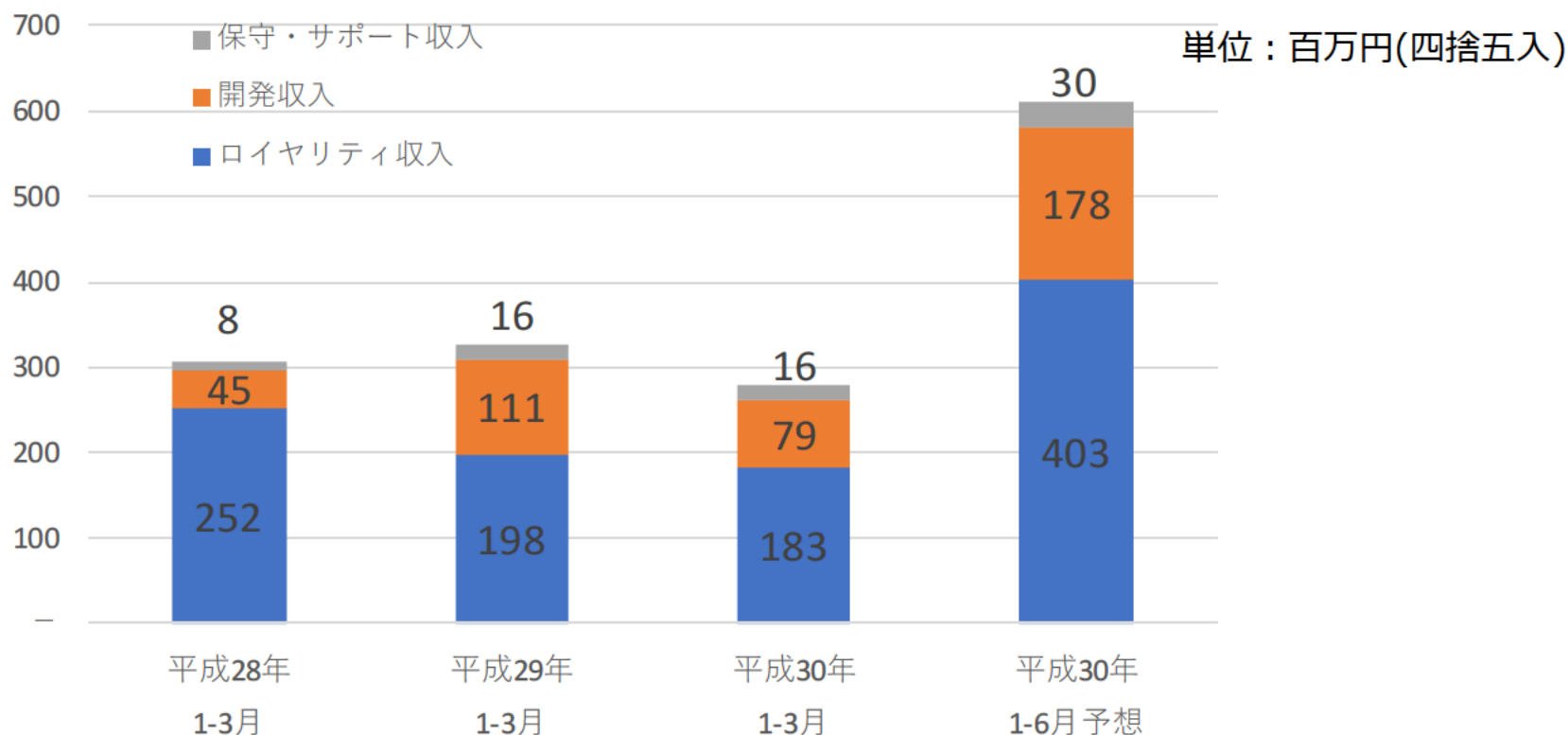
### (資産)

- ・ 現金及び預金は、税引前利益を16百万円計上したが、法人税の支払いや円高による円建金額の目減り等で、12百万円減少した。
- ・ 棚卸資産は、前払いしたロイヤリティの払い出しによる減少35百万円や仕掛品の増加12百万円等で、26百万円減少した。

### (負債)

- ・ 約定返済により、長短合わせて借入金が31百万円減少した。

### 3. 形態別連結売上高推移



連結売上高合計	305	325	278	611
---------	-----	-----	-----	-----

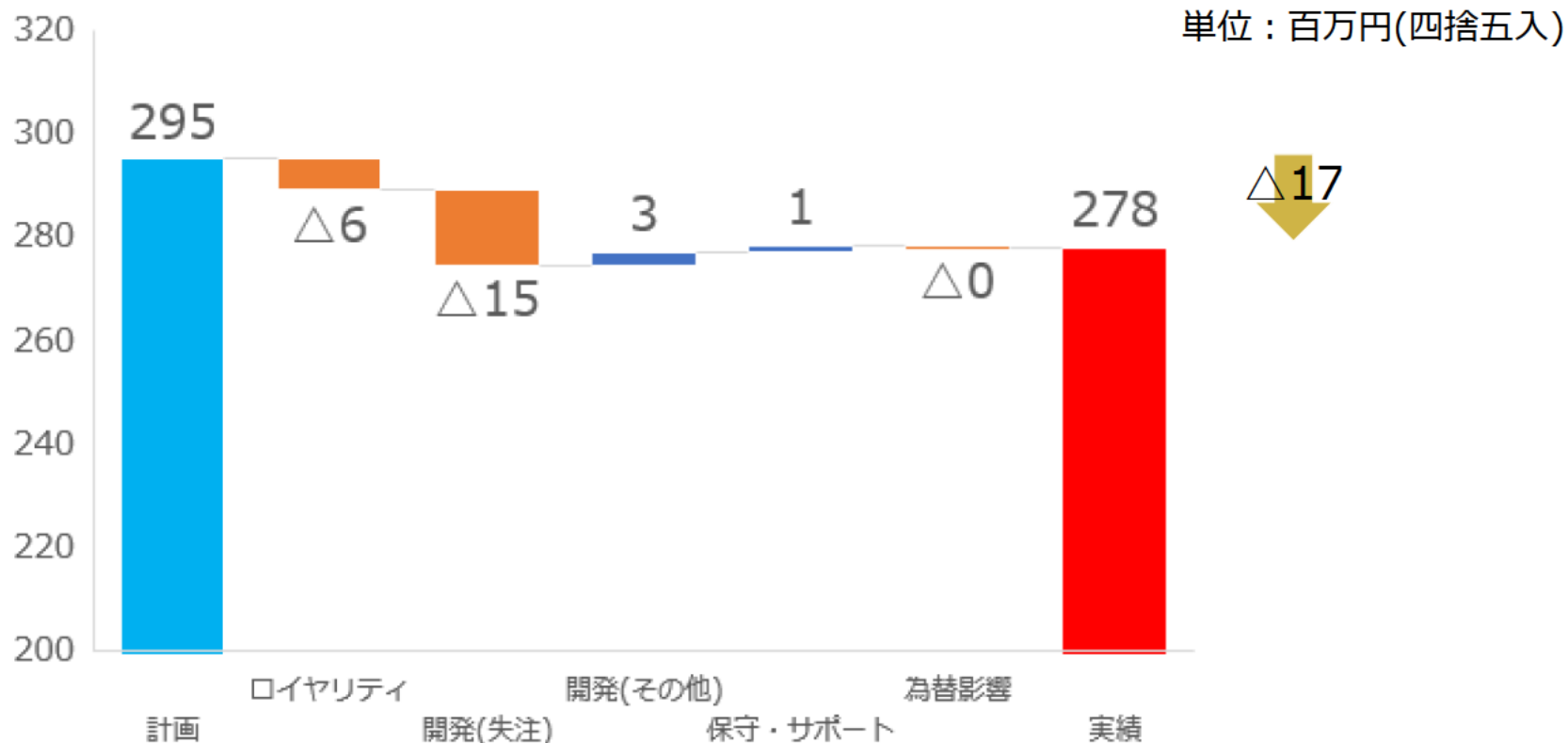
#### (ロイヤリティ収入)

当社ソフトウェア搭載機器の出荷台数が前年同期を下回ったことで、15百万円減少。

#### (開発収入)

前年同期の大きな開発案件の反動減により、子会社・タオソフトウェアで17百万円減少。  
顔認証AI関連開発案件が、当期は第2四半期に計上予定等で、sMedioで8百万円減少。

## 4. 連結売上高増減要因（計画比）



### (ロイヤリティ収入)

- ・画像解析AIエンジンのソリューション販売が遅れ（実証実験が想定より長引い）た影響5百万円等で、計画比6百万円減少。

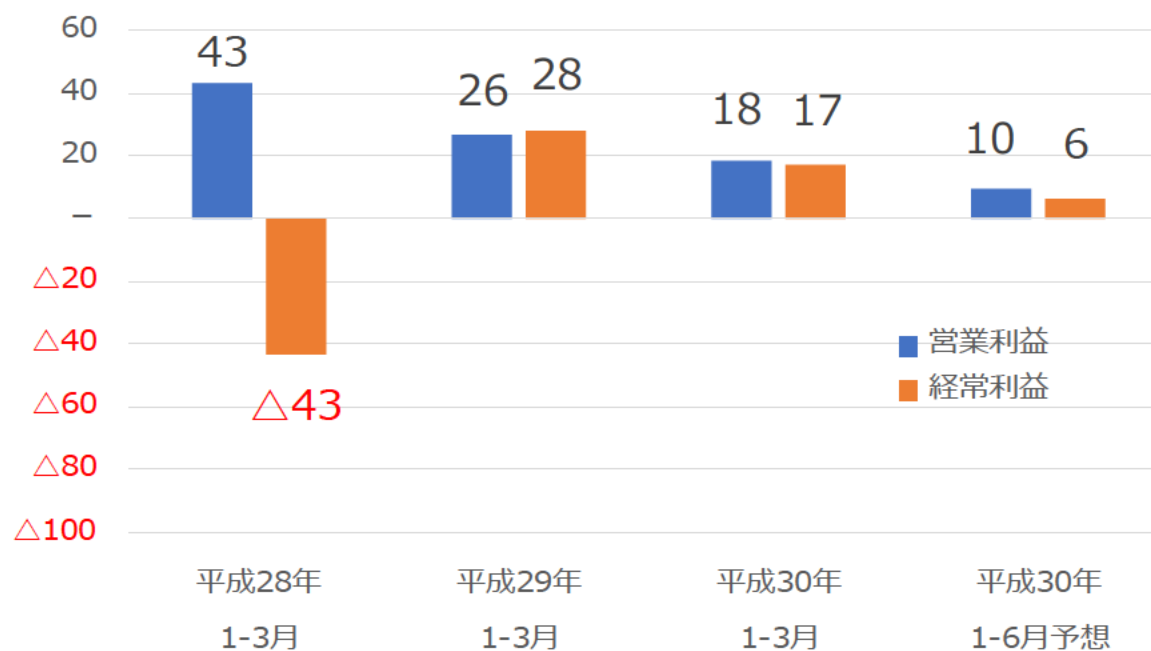
### (開発収入)

- ・見込んでいた案件を受注できなかった影響15百万円等で、計画比12百万円減少。



## 5. 連結営業利益・連結経常利益推移

単位：百万円(四捨五入)



連結営業利益	<b>43</b>	<b>26</b>	<b>18</b>	<b>10</b>
連結経常利益	<b>△43</b>	<b>28</b>	<b>17</b>	<b>6</b>

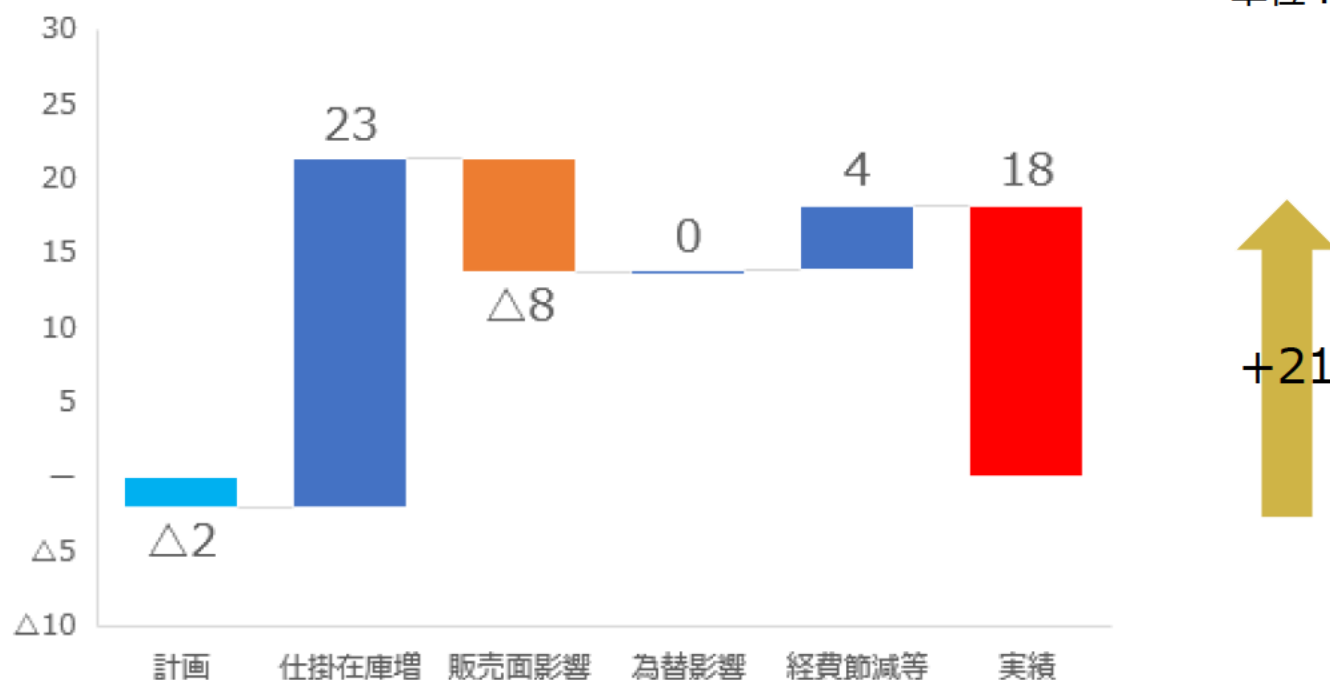
### (営業利益・経常利益)

売上高の減少により、売上総利益が25百万円減少したが、のれん償却費負担の減少3百万円、前年同期の本社移転に関する費用11百万円の剥落等により、営業利益は前年同期比8百万円減少の18百万円となった。

為替差損益も抑えられており、経常利益は、営業利益と同水準の17百万円となった。

## 6. 連結営業利益増減要因（計画比）

単位：百万円(四捨五入)

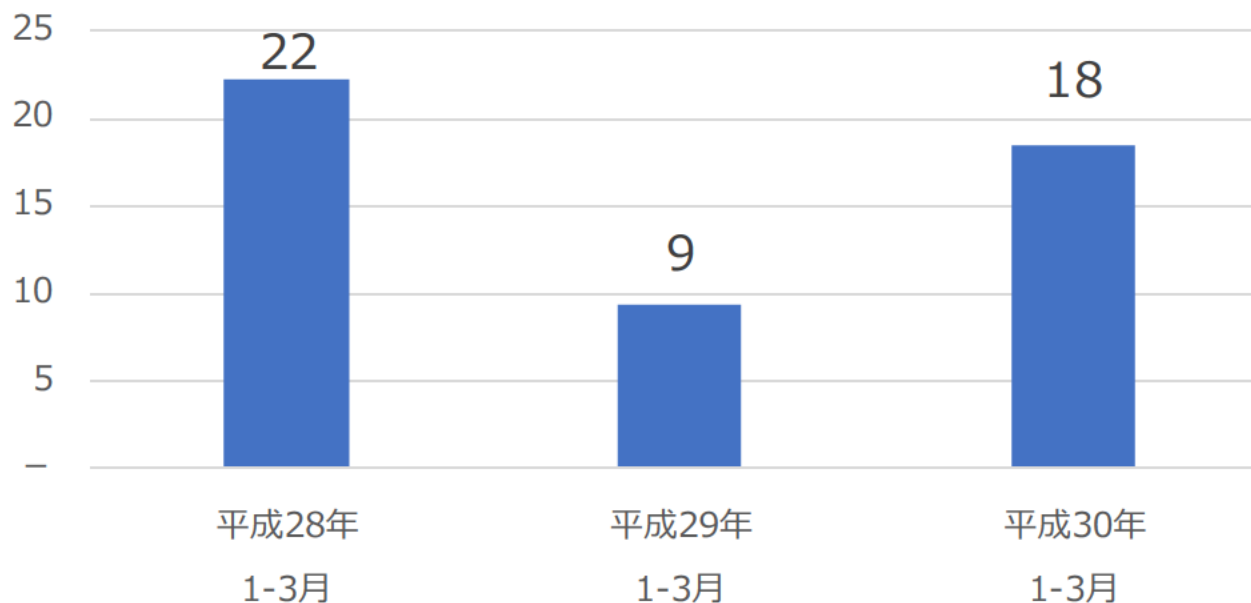


当第1四半期に売上計上した開発案件に対する開発工数が想定より少なく、翌四半期以降の開発案件に対して工数が振り当てられた等の結果、営業利益は、仕掛在庫の増加を通じて、計画比で増加した。



## 7. 研究開発費推移

単位：百万円(四捨五入)

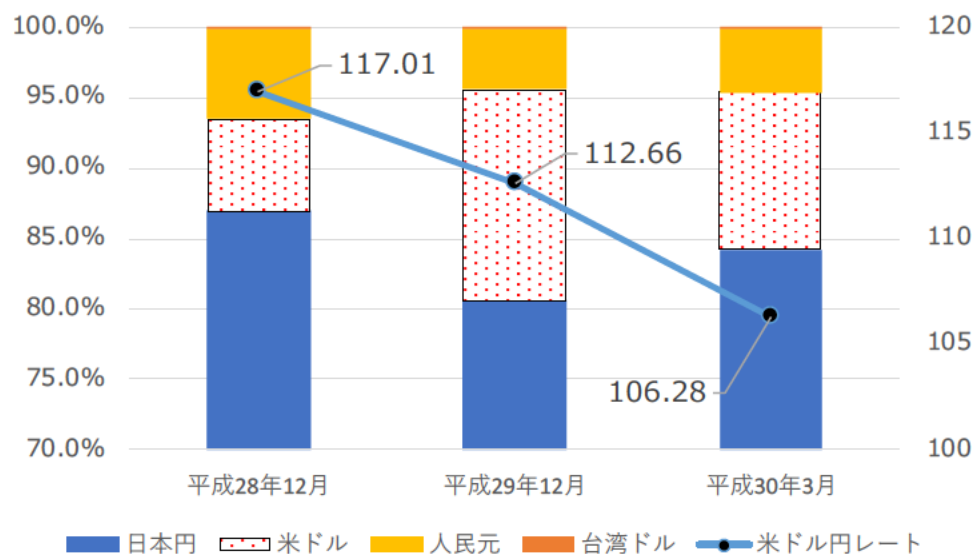


前年同期は、VR関連製品が主な研究開発の対象であったが、当第1四半期は、AI関連とブラウザ関連が研究開発の対象として割合が増えている。

(注) 当社の研究開発費は、受注決定前までの先行開発期間にかかる内部開発人件費を主としています。そのため、研究開発費の水準の評価にあたっては、受注済案件への開発リソース配分を増やすと、研究開発費は減少する傾向にある点にご留意ください。

## 8. 通貨別預金残高

単位：百万円(四捨五入)



現預金合計	1,364	1,219	1,207
-------	-------	-------	-------

平成30年3月末時点の現預金残高は、前年末に比べ、微減となった。  
 主な要因は、法人税の支払いによるものと円高による円換算額の目減りである。

本資料は、株式会社sMedio（以下、「当社」といいます。）の決算情報の説明のために作成されたものであります。

本資料に記載されている計画や見通し、将来展望などは、本資料作成時点において入手可能な情報に基づき、当社が合理的と考えるものであります。が、これらには、様々なリスクや不確実性が内在しています。

様々なリスクや不確実性には、既知のものもあれば、未知のものもあり、当社が発表している計画や見通し、将来展望、将来の業績などが、実際の業績などと異なる結果となる可能性があり、当社として、それらの実現を保証するものではありません。